

表 9-1

	合計	そう思う	どちらか そう 思う	どちらか そう わない	そう ない は 思 わ	無 回 答	平 均 値
1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら 通報することが望ましい	1420	66.4%	29.6%	2.3%	0.8%	0.9%	3.6
2 障害のある人にはかかわりたくない・逆	1420	1.3%	11.4%	38.7%	47.5%	1.1%	3.3
3 近所に障害者施設が建つのはいやだ・逆	1420	2.7%	12.1%	36.7%	47.3%	1.2%	3.3
4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい	1420	50.1%	43.4%	3.1%	2.3%	1.2%	3.4
5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ	1420	8.3%	20.8%	40.4%	27.7%	2.8%	2.1
6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない	1420	61.6%	31.2%	3.9%	2.3%	1.1%	3.5
7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる・逆	1420	12.5%	44.9%	31.1%	9.4%	2.0%	2.4

表 9-2-1 は、性別と「障害のある人の人権」についての考え方との関連をみたものです。

表 9-2-2 は、表 9-2-1 において、統計的有意差が認められた項目について平均値を求めたものです。

表 9-2-1

		合計	そう 思う	ど え ば そ う と 思 う	ど ち ら か と 思 わ な い	ど ち ら か と 思 わ な い	そ う は 思 わ な い	統 計 的 検 定
1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら、 通報することが望ましい	男性	625	66.6%	29.4%	2.6%	1.4%	p=.154	
	女性	756	67.1%	30.6%	2.0%	0.4%		
	性別未選択者	12	83.3%	8.3%	8.3%	0.0%		
	合計	1393	67.0%	29.9%	2.3%	0.9%		
2 障害のある人にはかかわりたくない	男性	627	1.6%	14.4%	41.3%	42.7%	p=.001 **	
	女性	751	0.9%	9.2%	37.4%	52.5%		
	性別未選択者	12	8.3%	8.3%	33.3%	50.0%		
	合計	1390	1.3%	11.5%	39.1%	48.1%		
3 近所に障害者施設が建つのはいやだ	男性	626	2.4%	13.7%	37.5%	46.3%	p=.622	
	女性	751	3.1%	11.2%	36.2%	49.5%		
	性別未選択者	12	0.0%	8.3%	50.0%	41.7%		
	合計	1389	2.7%	12.3%	36.9%	48.0%		
4 障害のある人が地域で暮らせるように サポートすることが望ましい	男性	625	48.0%	45.3%	3.5%	3.2%	p=.270	
	女性	752	52.5%	43.0%	2.9%	1.6%		
	性別未選択者	12	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%		
	合計	1389	50.6%	43.9%	3.2%	2.3%		
5 出生前診断は「命の選別（出生前診断） につながるから避けるべきだ	男性	615	9.8%	20.0%	40.5%	29.8%	p=.708	
	女性	740	7.6%	22.3%	42.3%	27.8%		
	性別未選択者	12	8.3%	25.0%	33.3%	33.3%		
	合計	1367	8.6%	21.3%	41.4%	28.7%		
6 障害のある人をじろじろとみたり、避け たりすることは望ましくない	男性	625	57.0%	35.5%	5.0%	2.6%	p=.001 **	
	女性	754	66.6%	28.6%	2.8%	2.0%		
	性別未選択者	12	75.0%	8.3%	16.7%	0.0%		
	合計	1391	62.3%	31.6%	3.9%	2.2%		
7 普段の生活の中で、合理的配慮が進めら れていると感じる	男性	622	14.0%	44.1%	31.4%	10.6%	p=.540	
	女性	743	12.1%	47.4%	32.0%	8.5%		
	性別未選択者	12	8.3%	33.3%	41.7%	16.7%		
	合計	1377	12.9%	45.8%	31.8%	9.5%		

表 9-2-2

F1 性別	2 障害のある人にはかかわりたくない・逆	6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない
男性	3.3	3.5
女性	3.4	3.6
性別未選択者	3.3	3.6
合計	3.3	3.5

表 9-2-1 と表 9-2-2 より、次のように解釈されます。

すなわち、「2 障害のある人にはかかわりたくない・逆」では、女性が男性および性別未選択者よりも平均値が高く、「6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない」では、女性と性別未選択者において男性よりも平均値が高いことがわかります。

障害のある人の人権について、いずれの性の人権意識が高いかということは一概には結論づけることはできません。

表 9-3-1 は、年齢と障害のある人の人権についての考え方とのクロス集計において、「5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ」と「6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない」の 2 項目は、統計的有意差が認められます。

表 9-3-2 は、統計的有意差の認められた 2 項目について平均値を示しています。

表 9-3-1

		合計	そう 思う	言 え ば そ う 思 う	ど ち ら か と 思 わ な い	言 え ば そ う か と	ど ち ら か と 思 わ な い	そ う は 思 わ な い	統計 的 検 定
5 出生前診断は「命の選別（出生前診断） につながるから避けるべきだ	10歳代	126	4.8%	21.4%	38.9%	34.9%	p<.001 ***		
	20歳代	170	4.7%	18.2%	41.2%	35.9%			
	30歳代	177	5.6%	11.3%	42.4%	40.7%			
	40歳代	193	6.2%	15.5%	44.0%	34.2%			
	50歳代	213	6.1%	24.4%	46.5%	23.0%			
	60歳代	260	10.8%	25.4%	41.2%	22.7%			
	70歳代以上	221	17.6%	29.0%	34.4%	19.0%			
	合計	1360	8.5%	21.3%	41.3%	28.9%			
6 障害のある人をじろじろとみたり、避け たりすることは望ましくない	10歳代	126	61.9%	27.8%	7.1%	3.2%	p<.001 ***		
	20歳代	173	54.9%	37.6%	5.8%	1.7%			
	30歳代	177	52.0%	37.9%	5.1%	5.1%			
	40歳代	195	63.6%	29.2%	5.1%	2.1%			
	50歳代	217	55.8%	40.1%	3.2%	0.9%			
	60歳代	264	68.2%	28.0%	1.5%	2.3%			
	70歳代以上	232	74.6%	22.4%	1.7%	1.3%			
	合計	1384	62.4%	31.6%	3.8%	2.2%			

表 9-3-2

F2 年齢	5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ	6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない
10歳代	2.0	3.5
20歳代	1.9	3.5
30歳代	1.8	3.4
40歳代	1.9	3.5
50歳代	2.1	3.5
60歳代	2.2	3.6
70歳代以上	2.5	3.7
合計	2.1	3.5

「5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ」、については、50歳未満の年齢の平均値が低くなっています。「6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない」については、60歳代、70歳代において平均値が高くなっています。

これらの結果のみで、年齢と障害のある人の人権についての関連について、結論づけることは困難です。

表 9-4-1 は、職種と「障害のある人の人権」についての考え方で統計的有意差が認められた項目のみ表示しています。

表 9-4-2 は、表 9-4-1 において統計的有意差が認められた項目について、平均値を求めたものです。

表 9-4-1

		合計	そう 思う	言 え ば そ う と 思 う	ど ち ら か と 思 わ な い	言 え ば そ う と 思 わ な い	そ う は 思 わ な い	統 計 的 検 定
2 障害のある人にはかかわりたくない	自営業	72	1.4%	8.3%	37.5%	52.8%	p=.015 *	
	自由業	14	7.1%	21.4%	28.6%	42.9%		
	公務員・教員	61	1.6%	9.8%	26.2%	62.3%		
	経営者・役員	35	0.0%	5.7%	45.7%	48.6%		
	正規職員	321	1.2%	15.6%	46.1%	37.1%		
	非正規職員	283	0.4%	9.9%	41.3%	48.4%		
	学生	165	1.8%	10.3%	36.4%	51.5%		
	無職	419	1.4%	11.0%	35.8%	51.8%		
	合計	1370	1.2%	11.5%	39.3%	48.0%		
4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい	自営業	72	44.4%	50.0%	2.8%	2.8%	p=.006 **	
	自由業	14	64.3%	28.6%	7.1%	0.0%		
	公務員・教員	61	60.7%	34.4%	4.9%	0.0%		
	経営者・役員	35	65.7%	28.6%	2.9%	2.9%		
	正規職員	319	42.6%	52.7%	2.8%	1.9%		
	非正規職員	283	48.4%	48.1%	1.4%	2.1%		
	学生	165	59.4%	37.6%	1.2%	1.8%		
	無職	421	52.3%	39.4%	5.2%	3.1%		
	合計	1370	50.5%	44.0%	3.2%	2.3%		
5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）につながるから避けるべきだ	自営業	68	8.8%	20.6%	36.8%	33.8%	p<.001 ***	
	自由業	14	0.0%	21.4%	50.0%	28.6%		
	公務員・教員	61	1.6%	24.6%	41.0%	32.8%		
	経営者・役員	35	5.7%	5.7%	62.9%	25.7%		
	正規職員	319	4.7%	16.6%	43.3%	35.4%		
	非正規職員	278	12.6%	21.6%	45.7%	20.1%		
	学生	165	3.6%	21.8%	36.4%	38.2%		
	無職	410	11.5%	26.1%	38.0%	24.4%		
	合計	1350	8.3%	21.5%	41.5%	28.7%		

つづき

		合計	そう思う	言えばそう思う	どちらかわからない	どちらかそう	そうはない	統計的検定
6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない	自営業	72	63.9%	31.9%	1.4%	2.8%	p<.001 ***	
	自由業	14	50.0%	42.9%	7.1%	0.0%		
	公務員・教員	61	50.8%	45.9%	1.6%	1.6%		
	経営者・役員	35	62.9%	25.7%	2.9%	8.6%		
	正規職員	320	53.1%	40.0%	5.0%	1.9%		
	非正規職員	282	59.6%	34.0%	5.0%	1.4%		
	学生	165	61.8%	26.7%	7.3%	4.2%		
	無職	421	72.0%	24.5%	1.9%	1.7%		
	合計	1370	62.0%	31.9%	3.9%	2.2%		
7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる	自営業	70	15.7%	44.3%	31.4%	8.6%	p=.012 *	
	自由業	14	7.1%	28.6%	64.3%	0.0%		
	公務員・教員	61	16.4%	50.8%	31.1%	1.6%		
	経営者・役員	35	11.4%	42.9%	42.9%	2.9%		
	正規職員	319	14.1%	42.0%	33.5%	10.3%		
	非正規職員	280	7.1%	52.1%	30.4%	10.4%		
	学生	165	20.6%	40.6%	31.5%	7.3%		
	無職	414	12.3%	46.9%	30.2%	10.6%		
	合計	1358	13.0%	45.8%	32.0%	9.3%		

表 9-4-2

F3 職業	2 障害のある人にはかかわりたくない・逆	4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい	5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ	6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない	7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる・逆
自営業	3.4	3.4	2.0	3.6	2.3
自由業	3.1	3.6	1.9	3.4	2.6
公務員・教員	3.5	3.6	2.0	3.5	2.2
経営者・役員	3.4	3.6	1.9	3.4	2.4
正規職員	3.2	3.4	1.9	3.4	2.4
非正規職員	3.4	3.4	2.3	3.5	2.4
学生	3.4	3.6	1.9	3.5	2.3
無職	3.4	3.4	2.3	3.7	2.4
合計	3.3	3.4	2.1	3.5	2.4

表 9-4-1 と表 9-4-2 によると、公務員・教員について、総じて、平均値が高く、人権意識が高いように読めますが、「7 普段の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる・逆」では点数が低く、公務員において、合理的配慮が進められていないと感じている要因や背景については気になるところです。

項目によって、特定の職業の人びとの点数が高かったり、低かったりしており、障害のある人の人権について、職種による違いがあると言えるかどうか、一概に解釈することは難しいところです。

なお、地域差はいずれの項目においても認められませんでした。

問10 次の「外国籍の人の人権」に関することがらについて、あなたのお考えを教えてください。
(それぞれ一つに○をつけてください)

問10は、「外国籍の人の人権」の考え方を問うたものです。

「1 近所に外国籍の人が多く住んでいると治安が心配である」、「2 外国籍という理由でアパートを貸してもらえないのは仕方がない」、「5 ヘイトスピーチも言論の自由だと思う」の考えでは、「どちらかと言えばそうは思わない」、「そうは思わない」というNOであることが人権意識の高さを意味します。また、「3 外国籍の人が差別的な言葉や行動を受けることは許せない」、「4 職場に外国籍の人が増えるのは好ましいと思う」、「7 外国籍の人の国の歴史や文化を尊重すべきだ」は、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」というYESであることが人権意識の高さを意味します。

表10-1によると、「3 外国籍の人が差別的な言葉や行動を受けることは許せない」、「7 外国籍の人の国の歴史や文化を尊重すべきだ」について、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせたYESという回答は90%弱になります。これらの意見は、外国籍の人の人権を尊重すべきだという意識と解されます。とはいえ、「6 特定の国の国籍（出身国）に対し固定観念や偏見があるかもしれない」について、YESは66.6%と高い数値を示しています。「2 外国籍という理由でアパートを貸してもらえないのは仕方がない」という意見にYESは16.1%、「4 職場に外国籍の人が増えるのは好ましいと思う」という意見にNOの人は27.4%、そして、「5 ヘイトスピーチも言論の自由だと思う」についてYESは19.5%と、外国籍の人びとへの差別的な意識の人々が少なくないことがわかります。このような差別的な意識と、「1 近所に外国籍の人が多く住んでいると治安が心配である」にYESが36.7%という外国籍の人に対する不安感を示す意識と無関係とは言えないかもしれません。

「6 特定の国の国籍（出身国）に対し固定観念や偏見があるかもしれない」、「8 日本に住んでいれば日本の歴史や文化を尊重すべきだ」については、人権意識の高さは、YESなのかNOなのか一概には言えません。

表10-1の右端の数値は、各項目の回答を点数化し、平均値を求めたものです。

「1 近所に外国籍の人が多く住んでいると治安が心配である」、「2 外国籍という理由でアパートを貸してもらえないのは仕方がない」、「5 ヘイトスピーチも言論の自由だと思う」では、「そう思う」1、「どちらかと言えばそう思う」2、「どちらかと言えばそうは思わない」3、「そうは思わない」4とします。これらの項目は、末尾に（逆）をつけています。「3 外国籍の人が差別的な言葉や行動を受けることは許せない」、「4 職場に外国籍の人が増えるのは好ましいと思う」、「7 外国籍の人の国の歴史や文化を尊重すべきだ」については、「そう思う」4、「どちらかと言えばそう思う」3、「どちらかと言えばそうは思わない」2、「そうは思わない」1とします。

また、「1 近所に外国籍の人が多く住んでいると治安が心配である」については、2007年調査の平均値も併記しています。そして、この項目については、2020年調査のほうが2007年調査よりも平均値が下がっていることがわかります。